

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

学校名	国際教養大学
設置者名	公立大学法人 国際教養大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
国際教養学部	グローバル・ビジネス課程	夜・通信	51	51	3	54	13	
	グローバル・スタディーズ課程	夜・通信			3	54	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://web.aiu.ac.jp/about/disclosure/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

学校名	国際教養大学
設置者名	公立大学法人 国際教養大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://web.aiu.ac.jp/about/governance/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	公益財団法人役員ほか	2017.6.1～ 2021.5.31	総理
非常勤	株式会社役員、公益財団 法人役員ほか	2019.6.1～ 2021.5.31	人事 財務 広報
非常勤	株式会社役員ほか	2019.6.1～ 2021.5.31	渉外・地域連携 学生生活 内部統制
非常勤	大学法人役員ほか	2019.6.1～ 2021.5.31	人事 教務・教育組織 広報
非常勤	独立行政法人顧問ほか	2019.6.1～ 2021.5.31	財務 教務・教育組織
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際教養大学
設置者名	公立大学法人 国際教養大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスの作成、公開については、履修登録のためのアドバイジングウィークに合わせて決められた年間スケジュールに沿って、学内総合情報システム(ATOMS)上で教員が行う。担当教員がシラバスを作成(入力)後、所属長教員が承認し、ATOMS及びホームページにて学内外に公開される。新規科目の場合は、教育研究会議においてシラバスの内容を精査し、上記の手順により公開する。</p> <p>シラバスの内容は次の項目について説明している。</p> <p>担当教員情報(メールアドレス、研究室、オフィスアワー)、授業概要、教育目標、教科書及び参考図書または教材、評価方法及び基準、求められる学術的予備知識の有無、授業ポリシー(担当教員が授業運営において重視する事項、学生に留意を求める事項等)、その他授業外での自律学習に関すること、授業スケジュール等。授業スケジュールには、各回で取り扱う内容に加えて必要な事前学習内容(熟読しておくべき教科書の章や参考文献など)またフィールドトリップの予定等が記載されている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://web.aiu.ac.jp/undergraduate/academic/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価の方法は、履修規程第17条第1項において、試験の成績、平常の成績、出席状況等の項目について総合的に判断することと規定されている。個々の科目における当該項目の配分については、シラバスにおいて明示し、学内総合情報システム(ATOMS)で公表している。試験やレポート以外にも、科目によってグループワーク、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなどを取り入れているほか、フィールドワーク、PBL(問題解決型学習)、電子媒体を利用した反転学修の実施等により、学生の能動的な学修意欲や学修成果を評価している。</p> <p>また、成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生又は当該成績を付与した教員が成績変更を発議できる制度を整備しており、学生が成績評価に不服がある場合、成績が付与されて1ヶ月以内であれば、書面で担当教員に申し出て変更の発議を行うことができる。当該教員が発議された成績変更に同意しない場合、もしくは変更された成績結果が公平ではないと学生が判断した場合、学生は事務局を通じて、「成績変更申請書」を学務部長に提出することができる。学務部長は担当教員と協議し、必要に応じて学生本人とも協議をした上で、担当教員に対し成績変更の推薦ができる。ただし、担当教員にはこの推薦に従う義務はない。これら成績変更に伴う手続き等については、学生便覧に掲載し全学生に明示している。</p>	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価基準は、履修規程第 17 条第 2 項において、A=Excellent, B=Good, C=Satisfactory, D=Poor, F=Failure と、成績の意味合いを定義し、学生の成績点に応じて A+～F までの 12 段階に細分化している。成績点から対応する評価点を以下の成績評価基準により算出し、科目の評価点と単位の積を合計し、その合計数を単位数合計で除すことによって G P A を算出する。G P A は学生の学修内容、理解度、進捗状況の目安としているほか、卒業や留学申請の要件としても使用されている。また、これらの内容は学生便覧及び大学ホームページ、パンフレット等に掲載し公表している。

成績	成績点	評価点
A+	100	4.00
A(Excellent)	95～99	4.00
A-	90～94	3.70
B+	87～89	3.30
B(Good)	83～86	3.00
B-	80～82	2.70
C+	77～79	2.30
C(Satisfactory)	73～76	2.00
C-	70～72	1.70
D+	66～69	1.30
D	60～65	1.00
F	0～59	0.00

客観的な指標の
算出方法の公表方法

学生便覧及び大学ホームページ、パンフレット等
https://web.aiu.ac.jp/wp/wp-content/themes/aiu/doc/about/regulation/06_kyogaku/K053_risyu.pdf

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、公表している。</p> <p>本学は、「国際教養教育」を教育理念に掲げ、地域社会と世界に貢献できるグローバル・リーダーの育成を使命とし、世界の広範な事象に関する幅広い知識と深い理解、物事の本質を見抜く洞察力や思考力、これらの上に築かれるグローバルな視野とともに、英語等の外国語の卓越したコミュニケーション能力の涵養に取り組んでいる。</p> <p>具体的には次の8項目を教育目標とし、これらの資質・能力を身に付け、経済及びビジネスを中心に学修しグローバル・ビジネス課程を修めた者に「学士（グローバル・ビジネス）」、北米、東アジア及びトランスナショナル分野を中心に学修しグローバル・スタディーズ課程を修めた者に「学士（グローバル・スタディーズ）」を授与している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ①多様な文化と言語的背景を持つ人々と関わり、効果的に協働することを可能にする英語及びその他の言語を操る能力 ②世界の文化、人間社会と自然界の広範に亘る知識 ③自己の文化とアイデンティティに対する深い認識 ④現代の複雑な課題を多面的に理解すること ⑤理論に基づく洞察力、論証力、探求力、自省と思慮深い行動に必要な知識及び実践的技能 ⑥知識、理論、情報を統合する能力 ⑦創造力と、自律的に考え情報に基づき判断できる能力 ⑧地域及び世界レベルの社会構成員としての認識と活動の源となる個人的及び社会的責任感 </div> <p>また、1年間の海外留学を義務付け、履修計画に基づいた学修とともに、英語等の言語を駆使し、異文化を深く理解し、自立した学修者として問題や困難に創造的な解決を見出してゆく能力を身につけることを求めている。</p> <p>学士号修得の要件として、本学に4年以上在学（3年以上の早期卒業制度あり）し、所定の授業科目を履修して124単位以上を修得、成績が累積GPA2.00以上であることを求めている。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://web.aiu.ac.jp/undergraduate/policies/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

学校名	国際教養大学
設置者名	公立大学法人 国際教養大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://web.aiu.ac.jp/about/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://web.aiu.ac.jp/about/disclosure/
事業報告書	https://web.aiu.ac.jp/about/disclosure/
監事による監査報告(書)	https://web.aiu.ac.jp/about/disclosure/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:公立大学法人国際教養大学の業務運営に関する計画 対象年度:2019年度)
公表方法: https://web.aiu.ac.jp/about/disclosure/
中長期計画(名称:公立大学法人国際教養大学中期計画 対象年度:2016~2022年度)
公表方法: https://web.aiu.ac.jp/about/disclosure/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://web.aiu.ac.jp/about/disclosure/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://web.aiu.ac.jp/about/disclosure/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際教養学部
教育研究上の目的 (公表方法 : https://web.aiu.ac.jp/undergraduate/mission/)
(概要) 「国際教養教育」を教学理念に掲げ、グローバル社会におけるリーダーを育成することを使命とし、英語をはじめとする外国語の卓越した運用能力、豊かな教養及びグローバルな知識を身につけた実践力ある人材を養成し、国際社会及び地域社会に貢献することを目的としている。 国際教養教育は、世界の広範な事象に関する幅広い知識と深い理解、物事の本質を見抜く洞察力や思考力、これらの上に築かれたグローバルな視野とともに、英語等の外国語の卓越したコミュニケーション能力を涵養し、国際教養教育を受けた者は、確固たる「個」を確立し、道義心の修養を通じて開かれた高潔な精神と情熱を持って時代の諸課題に立ち向かい、自らが暮らす地域や所属する国家のみならず広く人類社会に貢献する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://web.aiu.ac.jp/undergraduate/policies/)
(概要) 卒業認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) を定め、公表している。 本学は、「国際教養教育」を教育理念に掲げ、地域社会と世界に貢献できるグローバル・リーダーの育成を使命とし、世界の広範な事象に関する幅広い知識と深い理解、物事の本質を見抜く洞察力や思考力、これらの上に築かれるグローバルな視野とともに、英語等の外国語の卓越したコミュニケーション能力の涵養に取り組んでいる。 具体的には次の 8 項目を教育目標とし、これらの資質・能力を身に付け、経済及びビジネスを中心に学修しグローバル・ビジネス課程を修めた者に「学士 (グローバル・ビジネス)」、北米、東アジア及びトランスナショナル分野を中心に学修しグローバル・スタディズ課程を修めた者に「学士 (グローバル・スタディズ)」を授与している。
①多様な文化と言語的背景を持つ人々と関わり、効果的に協働することを可能にする英語及びその他の言語を操る能力 ②世界の文化、人間社会と自然界の広範に亘る知識 ③自己の文化とアイデンティティに対する深い認識 ④現代の複雑な課題を多面的に理解すること ⑤理論に基づく洞察力、論証力、探求力、自省と思慮深い行動に必要となる知識及び実践的技能 ⑥知識、理論、情報を統合する能力 ⑦創造力と、自律的に考え情報に基づき判断できる能力 ⑧地域及び世界レベルの社会構成員としての認識と活動の源となる個人的及び社会的責任感
また、1 年間の海外留学を義務付け、履修計画に基づいた学修とともに、英語等の言語を駆使し、異文化を深く理解し、自立した学修者として問題や困難に創造的な解決を見出してゆく能力を身につけることを求めている。 学士号修得の要件として、本学に 4 年以上在学 (3 年以上の早期卒業制度あり) し、所定の授業科目を履修して 124 単位以上を修得、成績が累積 G P A 2.00 以上であることを求めている。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://web.aiu.ac.jp/undergraduate/policies/)</p> <p>(概要)</p> <p>本学では、ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育目標達成のため、学修の探求方法として、批判的思考、量的論証、経験的方法、社会科学的視点、人文的・芸術的視点を盛り込み、授業は少人数クラス編成を基本とし、全てを英語で行っている。</p> <p>入学した学生は、オリエンテーション科目の履修と並行して英語のレベル別にクラスを編成し、集中英語課程(EAP)で学術英語の訓練とともに、大学での学修方法を学び、その後、基盤教育に進み、社会科学、芸術・人文科学、数学・自然科学、世界の言語と言語学、保健体育、日本研究等の科目を通じて知的土台を築いていく。</p> <p>その際、学修が特定の分野に偏ることがないように、選択必修などの履修要件が設定され、30単位を修得するまでに、専門教養課程のグローバル・ビジネス課程とグローバル・スタディズ課程のどちらかを選択し、より専門的な分野の学修を通じて、分析力、実践的なスキル、問題解決のための創造力、発信力などを身につけていく。</p> <p>また、この間に必要な英語能力と履修単位の要件を満たした学生には、海外で履修計画に沿った学修を進めるとともに、多様な言語、文化、人種、価値観に触れ人間的な成長を促すため、1年間の留学が義務付けられ、留学後はそれぞれの課程で卒業に必要な科目の残りを履修し、総合セミナーに加わり、課程の総仕上げを行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://web.aiu.ac.jp/undergraduate/policies/)</p> <p>(概要)</p> <p>本学の教育目標を理解し、グローバル社会のリーダーとなるための教育課程に意欲をもって挑戦できる基礎学力を有し、同僚学生と切磋琢磨するとともに協働により互いを高めあうことに喜びを感じることでできる次のような学生を受け入れることとし、受け入れる学生の多様性を重視した選抜方法を設定している。</p> <p>また、学生には、高等学校での学修を通じて、国際社会への知識と関心を深めるとともに、日本の社会・歴史・文化、世界の歴史についての基礎的知識を修得していることを期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学ぶ意欲が強く、鋭い問題意識を持つ学生であって、社会科学、人文科学、自然科学の広い分野について均衡のとれた基礎学力、論理的、批判的、創造的な思考力を身に着けた学生あるいは特定分野について卓越した経験や能力を有しながらより広い分野について学修を深めようとする意欲を持つ学生 ・海外での学修経験や諸活動への参加経験、国内での国際交流事業などに積極的参加を経験するなど世界の多様な文化、言語、歴史、社会などの国際関係について強い関心と探求心を持つ学生 ・国際社会を舞台に活躍できるような実践的な外国語運用能力（特に英語）と、幅広い教養の修得を志す学生

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://web.aiu.ac.jp/about/governance/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
国際教養学部	—	12人	16人	10人	16人	0人	54人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		39人					39人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://dbsg.aiu.ac.jp/search?m=home&l=ja					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
平成30年度はカリキュラム改革や教育手法、ダイバーシティなど多岐にわたるテーマで計8回のFDを開催し、延べ285名の教員が参加した。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際教養学部	175人	156人	89.1%	728人	871人	119.6%	10人	2人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	175人	156人	89.1%	728人	871人	119.6%	10人	2人
(備考) 入学者数は、申請日現在。入学定員のうち25人は、秋入学(9月)分。								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際教養学部	173人 (100%)	10人 (5.8%)	143人 (82.7%)	20人 (11.5%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	173人 (100%)	10人 (5.8%)	143人 (82.7%)	20人 (11.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 進学先：京都大学、東京大学、一橋大学、ロンドン大学、サセックス大学など（2018年度卒業者） 就職先：アシックス、京セラ、コクヨ、ソニー、富士フイルムなど（2018年度卒業者）				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>シラバスの作成、公開については、履修登録のためのアドバイジングウィークに合わせて決められた年間スケジュールに沿って、学内総合情報システム（ATOMS）上で教員が行う。担当教員がシラバスを作成（入力）後、所属長教員が承認し、ATOMS及びホームページにて学内外に公開される。新規科目の場合は、教育研究会議においてシラバスの内容を精査し、上記の手順により公開する。</p> <p>シラバスの内容は次の項目について説明している。</p> <p>担当教員情報（メールアドレス、研究室、オフィスアワー）、授業概要、教育目標、教科書及び参考図書または教材、評価方法及び基準、求められる学術的予備知識の有無、授業ポリシー（担当教員が授業運営において重視する事項、学生に留意を求める事項等）、その他授業外での自律学習に関すること、授業スケジュール等。授業スケジュールには、各回で取り扱う内容に加えて必要な事前学習内容（熟読しておくべき教科書の章や参考文献など）またフィールドトリップの予定等が記載されている。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>成績評価の方法は、試験の成績、平常の成績、出席状況等の項目について総合的に判断することと規定されており、個々の授業における当該項目の配分については、シラバスにおいて明示している。卒業の認定基準は、4年以上在学（3年以上の早期卒業制度あり）し、その間に1年間の海外留学を修了し、所定の授業科目を履修して124単位以上を修得し、成績が累積GPA2.00以上（早期卒業制度利用者の場合、GPA3.00以上）であることである。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際教養学部		124 単位	有・無	春秋semester 24 単位 冬期プログラム 12 単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：大学ホームページ、パンフレット等		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://web.aiu.ac.jp/campuslife/campusmap/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
国際教養 学部		696,000 円	282,000 円 (県内) 423,000 円 (県外)	610,060 円	寮費(光熱費・食費等込み) 教科書代・テスト受験料 インフルエンザ予防接種 保険料 など

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

【個別学修支援】

「学修達成センター」では、トレーニングを受けた学生がチューターとして他の学生を個別に学修支援するサービスを提供している。サポート分野としては、アカデミック・ライティングなど英語に関するもの、TOEFL など英語能力試験対策、数学、統計学、日本語などとなっている。

【経済的支援】

経済的困窮に対する支援のほか、学業成績の優秀な学生やキャンパス外で学びを深めたい学生を対象に、奨学金の給付を行っている。詳細は次のとおり。

AIU 正規学生長期奨学金

今年度より、学生の家庭環境の複雑さや昨今の社会情勢等に伴い、経済的に困窮している学生を救済するため新設したもの。この制度により、修学に対し熱意を持ちながら、いずれの奨学金も受ける事ができず、学業継続が困難な状況に陥っている学生を救済する。

授業料減免制度

罹災、学資負担者死亡等の不測の事態や、家計の事情により授業料の納付が困難な学生に対し、授業料を減免(半額もしくは全額)する制度。

アンバサダー奨励金

国内外における国際会議や研修会への参加を支援するため、旅費等経費の一部を補助する制度を導入している。一定の金額を給付することで、経済面での負担を軽減し、参加を促進している。

留学時成績優秀者報奨奨学金

留学出発直前の成績が優秀である学生に対し、大学が選抜し給付する。

b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>【就職支援】</p> <p>キャリア開発センターを設置し、学生の個別相談に力を入れたきめ細かな進路選択支援を行っている。必修科目の「キャリア・デザイン」は職業意識の形成を目的としており、入学後間もない時期から知識や経験を通じた自己理解の上に立って幅広い視点でキャリアを考え、職業選択に結び付けられるようサポートしている。留学中の就職活動希望者には Skype を用いた個別相談も実施している。</p> <p>また、学内に企業の担当者を招聘し、各企業の使命や強み、業界動向、求める人材像等を学生に紹介する「仕事研究会」を実施している他、国内外でのインターンシップ活動への参加を奨励している。さらに、同窓会や企業と連携し、卒業生との交流会、業界研究会、海外での交流等の様々な機会や、就職が内定した先輩が後輩のサポートをする環境等を提供している。</p> <p>【大学院進学支援】</p> <p>アカデミックキャリア支援センターを設置し、国内外への進学や、高度専門職を目指す学生へのサポートも実施している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学の学生支援においては、充実した学生生活を送ることができるよう心身の健康保持および困難や問題を抱える学生のリーチアウトを最重視している。学内に学生寮・学生宿舎があり、約9割の学生が学内に居住していること、また、小規模大学であるメリットを活かし、学生一人ひとりを授業の出席状況や参加の状況に加え、生活面など多角的な視点で確認している。また、学生の抱える問題や困難さが、学年の進行につれて変化し、かつ潜在化する傾向にあることを踏まえ、学生課を中心に、留学、教務、キャリア支援等、学生と多くの接点を持つ複数の部署が連携し、適宜情報の共有を図っている。サポートが必要だと判断した学生には、看護師や臨床心理士とともに対応にあたり、できる限り早期の対応に努め、問題が深刻化する前に支援を提供している。</p> <p>学生の心身双方の健康について対応するため、看護師および臨床心理士が常勤している。看護師は、体調がすぐれない時や、怪我をした際の応急措置はもちろん、健康診断後の結果のフォロー、不定期に発刊する保健室だよりを通じて健康情報の発信、病院の紹介、イベントやセミナー等を主催し、学生の健康維持・増進に努めている。カウンセリングルームでは、メンタルヘルスから学業、自己理解の悩みまで広く相談に応じている。なお、留学生が多くいることから、看護師および臨床心理士とも英語対応が可能である。</p> <p>また、障害や疾病等により、長期間に渡り相当な制限を受ける状態にある学生に対し、社会的障壁を除去し、本人の障害特性や病状に応じた適切な支援を提供している。障害や疾病の有無にかかわらず、いずれの学生も本学での学びを深め、能力を発揮できるような環境を整えている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://web.aiu.ac.jp/about/disclosure/
--